



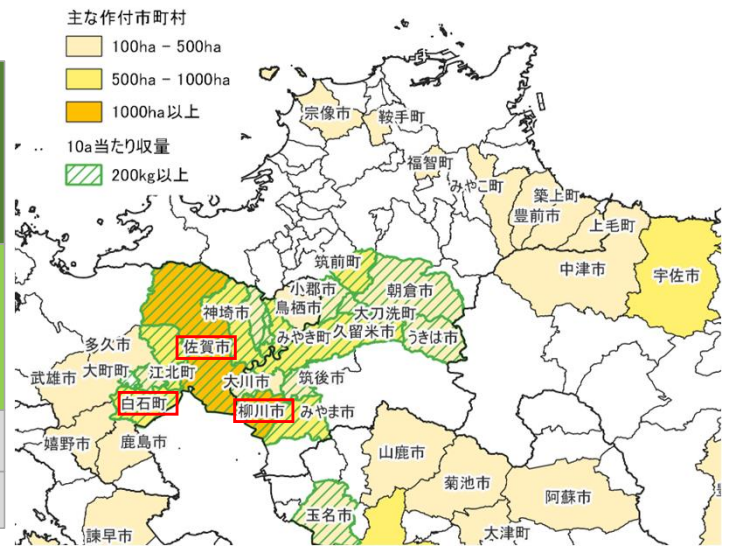
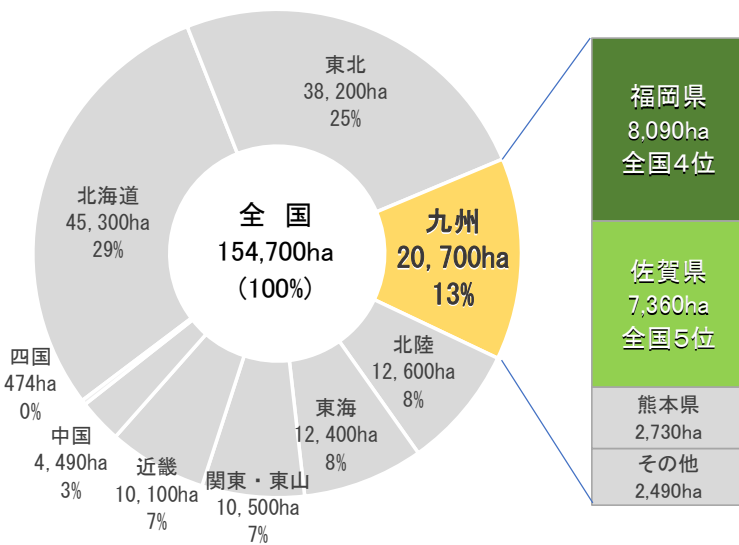
※SAFFは「Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries」を表現しています。

統計でわかる！Vol. 6 令和6年12月 九州の大豆



1 令和5年産大豆の作付面積

- ・九州における令和5年産大豆の作付面積は、全国の約13%を占め、福岡県（8,090ha、全国4位）、佐賀県（7,360ha、同5位）で九州の約75%を占める。市町村別にみると、佐賀市が2,710ha（全国1位）柳川市が1,440ha（同14位）白石町が905ha（同33位）となっている。

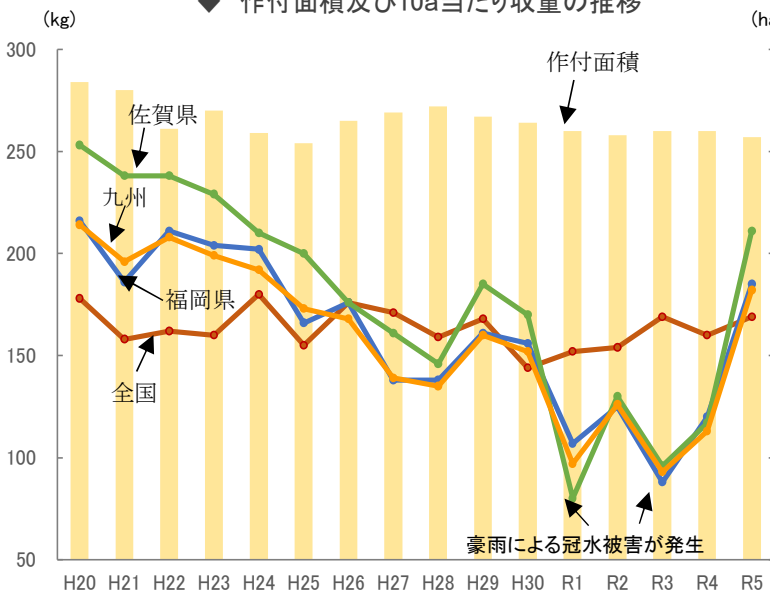


資料：農林水産省統計部「作物統計調査」

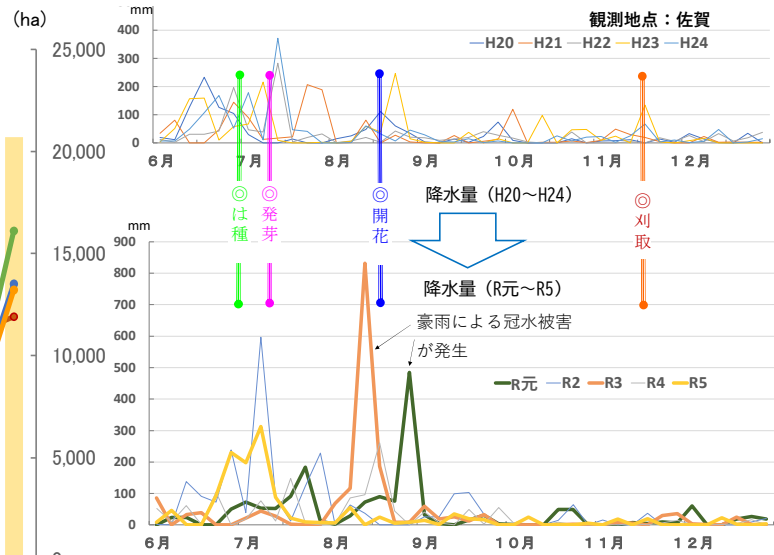
2 大豆の作付面積及び10a当たり収量の動き

- ・九州の主産県における10a当たり収量は、年による変動が大きくなっており、近年の10a当たり収量は低下傾向にある。
- ・天候不順（は種期の大雨、開花期以降の干ばつ等）や規模拡大による適期作業の逸失等が要因。

◆ 作付面積及び10a当たり収量の推移



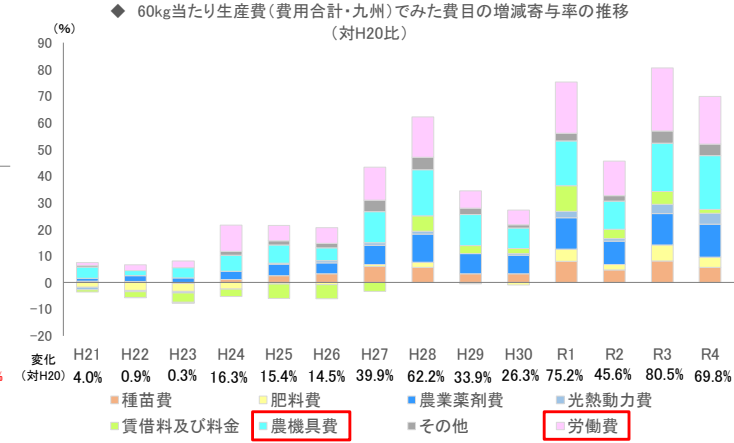
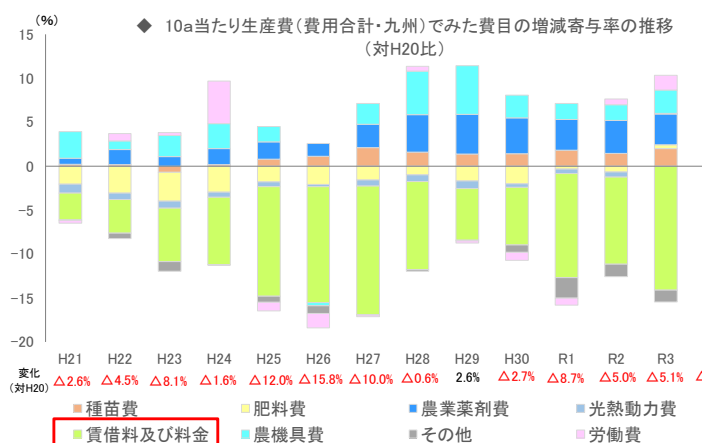
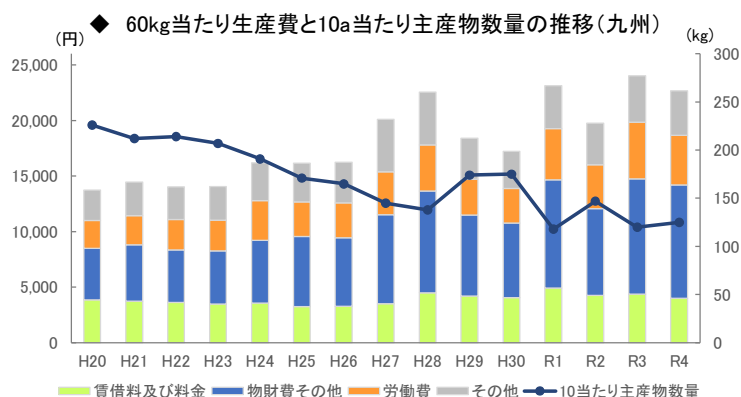
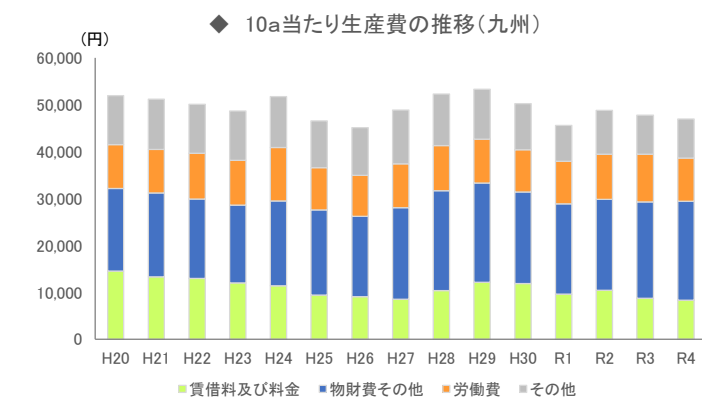
資料：農林水産省統計部「作物統計調査」



資料：気象庁「アメダスデータ」

3 大豆の生産費の動き

- ・九州における10a当たりの生産コストは緩やかに低下しているが、60kg当たりの生産コストは10a当たり収量の低下により上昇傾向となっている。
- ・10a当たりの生産コストの低下は、収量の減少によるC E等の利用料金（賃借料及び料金）の減少が要因。
- ・しかし、収量の減少は、結果として単位数量当たりの生産コスト上昇につながっている。



資料：農林水産省統計部「農産物生産費統計調査（個別経営）」

4 大豆の安定生産に向けて

- ・九州では、従来品種よりも乾燥等による裂莢が少ない「フクユタカA1号」（農研機構開発）、従来品種よりも単収が多い「ちくしB5号」（福岡県開発）に加えて、両方の特徴を有する「そらみのり」（農研機構開発）等への新品種切替を更に進めていく必要。

(裂莢性の比較)



れっきょう
※裂莢とは・・・ほ場で成熟した莢がはじけ、収穫ロスの原因になる。

写真：農研機構九州沖縄農業研究センター

収穫前のフクユタカ裂莢の様子

